
■ さろん | Mail News 2017/1/15 | #83 ■ 【読み物号】

(*Bcc でお送りしています) ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのまま返信ください。

「さろん」や哲学カフェ界限の情報をご案内いたします。
みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも弊会を応援いただければ幸いです。
なおメールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な考えを表したものであり、
会や専門領域における統一見解とは異なる場合がありますのでご了承ください。

=====Vol.83 2017年1月15日(日)=====

さ | ろ | ん |
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

=====

INDEX

- | 【おしらせ】(1/23) 喫茶室ゆるっトーク
- | 【1】誌上哲学カフェ「ミニさろん」第8回
- | 【2】コラム/エッセイ
- | ◇『正月に想う』
- | 【おしらせ】「さろんラボ」企画を募集しています
- | 【付録】コトバをハーバリウムする
- | 【付録】さろんアーカイブの遊歩道
- | 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

(1/23) 喫茶室ゆるっトーク

テーマ「オトナに必要な勉強&体験ってなあに？」

通称『ゆるカフェ』、地味に営業中です。

前日も4名でこじんまりと、ゆるゆると、座談の雰囲気になりました。

今回のテーマは「オトナに必要な勉強&体験ってなあに？」。

1月23日(月) 19:05-21:30 開催です。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。
ゆるっと奏でる月イチのセッションの時間、お気軽にいらしてください。

定員5名まで

1月23日(月) 19:05より

渋谷エリア(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: salontetsugaku@gmail.com

(幹事: せりざわ)

【1】誌上哲学カフェ

「ミニさろん」第8回

テーマ: 『おいしいものばかり食べちゃダメなの?』

未来の世界からやって来た、ぼくドラえもん。僕は山盛りのどら焼きを想像するだけで幸せな気分になって他のことはどうでもよくなってしまいうんだけど、この前ドラマミにそんな話をしたら大喧嘩になっちゃたんだよ。まったく頭が固い妹で嫌になっちゃうよ。みんなはどう思うか、話を聞いてみよう……。

テーマ: 『おいしいものばかり食べちゃダメなの?』

<スネ夫>

僕は毎日、世界中の国から集めたおいしいものを食べているよ。それが人生を楽しむってことさ。未知の味を体験して、刺激を受けて、知らないことを知っていくことが大人になっていくってことだろ。だいいち、ものがたくさんあって、簡単に手に入る時代に生きていて、それなのに、栄養バランスとか健康とかダイエットとか言っていて、好きなものを我慢する食事なんてナンセンスさ。文明の進歩に逆らってると思えないよ。もし病気になったとしても、現代の医療技術ならなんとかしてくれるのさ。だから、学校の給食なんか、僕には耐えられないね。ま、僕が食べるものは、庶民の君たちには手が届かないだろうけどね。

<ドラマミちゃん>

おいしいものばかり食べるですってえ? そんな夢みたいな話、きれいな。おいしいものはときどき食べるからおいしいのよ。だってさ、ちょっと考えてみればわかるはずよ。おいしいものはおいしくないものが分かるから、それがおいしいって分かるはずでしょう。毎日3食、同じようにおいしいものを食べていたら、どれがおいしくてどれがおいしくないかの区別が自分で分からなくなって、どれもがふつうになってしまうはずよ。おいしさの種類が違うと言ってもだめよ。おいしいものはおいしくないものの味が分かって初めて、その味がおいしいと分かるはずだから。そう考え

ると、何事もバランスが大事なんだと思うわ。

<出木杉>

僕は二人の意見のどちらにも納得できるな。スネ夫くんはおいしいものを食べ続けて得られる満足感を何よりも大切にしている、ドラミちゃんはおいしくないものと比較することで初めておいしさを理解できている。でも二人ともおいしいものを食べることは楽しいことだと暗に認めているよね。大事なのはどうすれば食べることを目一杯楽しむことができるか、自分の経験に照らしてしっかり考えることじゃないのかな。いつまでも食べていたいと思えるほどおいしいものに出会うことはあるけれど、ずっとそればかり食べていると飽きてしまうこともあるかもしれない。体調や気分次第で感じ方も変わってしまうし結論を出すのは難しいけれど、自分にとって食べるのがどんな意味をもつのか考えることは有益なことだと思うよ。

【2】コラム/エッセイ

▽【正月に想う】

一生

▽【正月に想う】

一生

英文学者の外山滋比古氏は『なぜ』『どうしたら』の塊である*1。ちょっと立ち止まってみれば、不思議なことはたくさんある。それを素通りしない。その中にあるおもしろさをとらえるには「生活が大事なんです」。「(生活とは) 一番は、他人と触れあう時間。自分と違うことを知っている人たちのおしゃべりには、本にはない『動いているおもしろさ』があります」。初めて聞く内容自体のおもしろさに加え、何げない一言に触発されて、新しい考えが浮かんだり、いくつかの考えに結びついたり。寝かせていた考えが何倍もおもしろくなってよみがえってくることもある。おしゃべりの効用である。「いろんな人と接すれば、当然うまくいかないこともある。すると、『どうしてこうなってしまったんだろう』と真剣に考える。『生活』があれば、真剣に考えるのです」。

聖学院大非常勤講師の大賀祐樹氏は、人間の知性は誤り得るとして、唯一絶対の真理を追究する伝統的な西洋哲学を批判し、プラグマティズムについて解説する*2。「すべてを解決できる『唯一の正しさ』には到達できないが、その時々の問題の解決に有用な『それなりの正しさ』には到達できる。暫定的な真理を肯定し、間違いが見つかれば修正する。柔軟な多元主義なんです」。20世紀に入り、プラグマティズムの適用範囲を教育や民主主義などに広げた哲学者デューイによって、「知識は問題解決に役立つ道具」とする道具主義が確立される。問題解決への仮説を立てて、実践によって検証を繰り返し、そのつど修正を加え、より良き方法を求める。知識はそのための道具という考えだ。「あきらめることなく対話を継続してコミュニケーションを図り、相互理解の可能性を探るのです」。

英文学者は「自分と違うことを知っている人たちのおしゃべりには、新しい考えが浮かんだり、いくつかの考えに結びついたり。寝かせていた考えが何倍もおもしろくなってよみがえってくる」ことを指摘する。一方、思想史研究者は「暫定的な真理」「より良き方法」を求めるために「あきら

めることなく対話を継続してコミュニケーションを図り、相互理解の可能性を探る」ことの重要性を指摘する。世界は混沌の様相を呈し、一寸先を見通すことも困難な世の中である。だが、だからこそ、少しだけでも立ち止まって、大切だが良く分からないことを考え、真理やより良き何かを求めて対話を継続し、相互理解の可能性を探って行きたい。

*1：朝日新聞 2016年5月30日「日常の『なぜ』素通りしない～英文学者 外山滋比古さん」

*2：朝日新聞 2016年5月29日「文化の扉～プラグマティズム」

【おしらせ】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ-テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【付録】

コトバをハーバリウムする

本のコトバから #15

砂漠のまん中で 待ち合わせした友達と 出会う方法。
まずは大きく 息を吸い込み 目をつむる。

そして心の中に まんまるを つくる。
そのまんまるに 意識を集中 するのさ。
そこに、小さな モヤモヤを 見つける。
正確な場所を 捜してごらん。
そこに 相手はいる。

——松本大洋『ナンバー吾』

歌のコトバから #15

絞って きみの真っ赤な血を全部
乾かして 汗も涙も血も全部
もう一度 頭絞ってにじみ出てきた緑の液体が
きみのすべてさ
ぼくのすべてさ

——ゆらゆら帝国『発光体』（作詞：坂本慎太郎）

【付録】

さろんアーカイブの遊歩道 #09

カテゴリ：【夜さろん 第11夜】

テーマ： 《たいせつに考え続けていたいことのために》

開催日： 2014年8月22日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2014/08/yoru_hondana_11.pdf

仕事をしている時、「わからないこと」は解決するべきものとして、ネガティブなものとして扱われる。あるいは、いずれ「わかること」になる前段階としてのみ、ポジティブなものとして見做される。

家族・友人の悩みに耳を傾けるとき、相手に対して「わからない」と言い放つ事は大抵、相手の不興を買う。こんな時、友人達はみな一緒に同じ反応をする。「わかるー!!」。

自然科学は「わからないこと」を一つ一つ「わかること」に仕立て上げようと試みてきた。私達はその恩恵に預かることで生き永らえている、とも言える。しかしそもそも私達は本当に私達の世界を「わかっている」のか。そもそも「わかる」とは何なのか。立ち止まって考える機会はあまりに少ないと感じる。昨年は様々な政治的変動が起こった一年だった。既存の価値観が現実揺さぶられる時こそ、「わからないこと」と向き合い続ける胆力が試されるように思う。(楠)

編集後記

メールニュース第83号をお届けします。

今月号に掲載している「ミニさろん」ご覧いただけましたか？

ご覧いただいた方で、ある有名な小説を思い浮かべた方はどれだけいらっしゃるでしょうか。実はこの『おいしいものばかり食べちゃダメなの?』というテーマって、芥川龍之介の名篇「芋粥」の世界そのものなんですよ。

<http://www.aozora.gr.jp/cards/000879/card55.html>

「芋粥」に登場する主人公の従者侍は、風采の上がない、貧しくうす汚い男です。従者侍は大好物の甘い芋粥を年に一度食べることを生き甲斐にしています。けれどいつかこの芋粥を腹いっぱい食べてみたいと、凡庸な（けれど真剣な）願いを抱えているのですが、この卑俗な想いほどこかで、彼の「生きる」張り合いにもつながっているようです。それがひよんな時に叶えられることになり――。

この滑稽で哀切な物語は、人生における箴言のレベルにまで達しています。優れた短編小説が切り取った滋味深い人間模様を再読いただき、今号のミニさろんとの往還を堪能してもらえると嬉しいです。ご感想もお待ちしています♪（ミニさろんの中の人、宛）

年始一発目の朝さろん「雪国」も無事終了。来月は三島由紀夫「美德のよろめき」です。そして今週土曜 21 日はさろん哲学「動物実験は許されるか?」。ゆるカフェも地味に開催中です。ぜひ足をお運びください。

それではまた来年、次号にてお会いしましょう。ほう。

編集：(フクロウ)

さろん | Mail News 2017/1/15

⇒次号 (2月1日発行予定)

さろん Mail News 第83号 / 2017年1月15日発行【読み物号】

編集・発行：さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

◇「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。

- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."
